



# 鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター令和2年秋号(77号)

## この夏、秋にできなかったこと…

岐阜ダルク後援会  
会長 徳弘浩隆

今年9月や10月は、私はブラジルを訪ねる予定でした。残っている書類の手続きをして、永住ビザも延長し、ブラジルの教会の会議にも出席するためでした。九州の高齢になった両親も訪ねるつもりでした。両親に親孝行をして、今までを振り返っていろいろと話を聞いてみたいと思っていました。しかしこれらは今回ありませんでした。とても損をしたような、チャンスを逃したような気持ちになりました。

外国のビザは「自分は、いつでも出入り出来て、ここに生きていい」という許可。そして、高齢の両親との関係では「孝行し、感謝したり詫びたりし、何かを清算すること」。これらは、私たちの人生でとても大切なことです。それは「自分の存在の承認」、そして「問題や人間関係の修復」だからです。

いくつになっても、生きにくさを感じたり、失敗をして道をそれてしまったりもします。その繰り返しかもしれません。でも、人生はやり直しがききます。神様はどんな罪深い者でも「あなたはここにいていいんだよ」と肯定してくれます。人間関係の問題でもやり残したことがあれば、素直になって取り組み修復できます。そのためには、自分自身に向き合い、自分自身を受け入れてあげること。悪いところも受け入れ赦してあげて、再出発させてあげること。意固地になったり、いつも逃げていたりしては、再出発はできません。ビザの延長や両親との和解や親孝行には期限がありますが、人生のやり直しには命ある限り、期限はありません。教会では、自分の罪を見つめ、神様にゆるしていただき新しく生まれ変わるために、洗礼を受けます。私はどなたにもその機会をおすすめしています。

ダルクの皆さんも、自分に向き合い、素直に語り合い、プログラムに、そして自分に取り組んでおられます。私も応援しながら、学ばされています。

「2020年は新型コロナのせいで、何もできなかった、失われた一年になった」と不満を言うだけか、「おかげで自分にしっかり向き会って、新しいことに踏み出せた一年になった」か、それは自分にかかっているようですね。できないことでなく、やれることに目を向けていきましょう。

## 仲間の体験談

ヤス

僕が薬物を初めて手にしたのは、23歳の頃です。当時合法ハーブを仲間内で使っていました。使っているうちにだんだんと興味が出てきて、近所のハーブ店やインターネットで買うようになりました。初めて使ったときの感じは、体が熱くなり、全身の血液が沸騰する感じがして、普段味わうことのない感覚にはまりました。当時、合法ハーブが社会問題になっており、逮捕されてしまうかとも思っていました。量は次第に増え、他にもパウダリキッドにも手を出しました。リキッドを使っている時に、警察に通報されたという幻覚、幻聴を見て、両親に使っていることを言い、精神病院に連れて行かれ、しばらくして薬物が止まりました。もう薬物は使わないと決め、新しく仕事をはじめました。初めは普通に生活していたのですが、ストレスからリキッド覚せい剤に手を出しました。初めての覚せい剤に衝撃を受け、すぐにはまりました。初めは週末、長期連休の時に使っていたのですが、徐々に平日も使うようになりました。そんな生活が続いたのですが、大阪に行って薬を使って遊んでいた時に、ボケて勘ぐってしまい、自首という形で逮捕されました。

今は施設に入寮して、5ヶ月薬が止まっています。欲求も少なくなってきた、電話、お金の管理がされていて、不自由も感じているのですが、シラフを続けているうちに、自分がどのタイミングで使いたくなるのかが分かってきました。ミーティングに参加し、仲間の意見を聞いたり話したりすることによって、やっぱりそうだよなって共感してもらえたり、自分の恥ずかしい話を笑ってもらえたり、薬を使って人生を楽しんでいると思っていたのですが、性の奴隷になっていたんだと、改めて思いました。これからも、クリーンな人生を続けていきたいです。



ラジオ

18歳の時に東京に上京してまもなく、同じ大学の女の子に誘われ、覚せい剤をすすめられました。僕は迷う事なく覚せい剤をやりました。テンションが高くなってよくしゃべり、それからその女の子と一晩中SEXをしました。その女の子とはそれきりで、地元の友達の家へ遊びに行った時に、友達が仲良くなったヤクザからもらった覚せい剤があり、早速その友達と一緒にやりました。それからは、そのヤクザの人から覚せい剤やマリファナをまわしてもらい、地元の友達6、7人でやるようになりました。頻度はどんどん増え、そのうち1人でも使うようになりました。友達の中には止めていく人間もいたし、ヤクザになっていく人間もいました。僕は大学生で、学校には全く行っていなかったけど、大学生という立場を利用して、6年間籍だけは置いていました。もちろんその間も、覚せい剤、マリファナ、LSD、エクスタシー、マジックマッシュルームと、クスリは止められず、そしてさらに頻度は増え続けていきました。

大学を中退して地元に戻ってからも、クスリは続けていて、約13年前に出会った人間から覚せい剤をまわしてもらいようになり、毎日覚せい剤をやりに行って、完全に覚せい剤が生活の一部となっていきました。そんな生活を続けているうちに、警察に逮捕されて、挙句の果てには、2度刑務所に行くはめになりました。刑務所に行っても、その間だけ覚せい剤が止まっただけで、逆に、覚せい剤のネットワークを広げるだけでした。しかし、今回逮捕されてすぐに、父親のガンが発覚して、その3ヶ月後に、父親はなくなりました。その状態でも、父親は2度面会に来てくれました。その時に「普通に、生きられるようになる」と約束して、岐阜ダルクに繋がって約2ヵ月。覚せい剤の欲求はとてつもないし、プログラムは嫌な事だらけだけど、何とか、やっています。



## 岐阜ダルク1日体験を通して

岐阜県精神保健福祉センター 若園 優

私は、岐阜県精神保健福祉センターに勤務しており、本年度から、依存症対策の担当となりました。以前より、「ダルク～回復する依存者たち～」 「ダルクの日々 薬物依存者たちの生活と人生」 「薬物依存症は病気です（岐阜ダルク編）」などの書籍等を読んでいましたが、岐阜ダルクの実際を知りたいと思い、1日体験を希望したところ、快くご承諾いただきました。

最初は、初めての場所ということで緊張しておりましたが、岐阜ダルクの仲間たちが温かく迎え入れてくれました。

岐阜ダルクの仲間と活動を共にする中で、ダルクの支援について抱いていたイメージが変わっていきました。そこには、支援現場では無く、やめ続けるために新しい生き方を模索している仲間たちの「支援—被支援」の関係性を越えた世界がありました。岐阜ダルクにおいては、誰もが支援の対象ではなく、「回復の主体」なのです。そのため、いわゆる支援者は存在しません。世間でいう施設長、スタッフの方は、「先行く仲間」と呼びます。

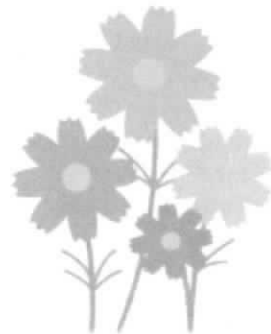
午前のプログラムは、「言いつばなし聞きつばなしのミーティング」です。皆で机を囲み仲間たちが順番にテーマに沿って話をしていきます。私の番がきました。岐阜ダルクの雰囲気やそうさせたのか、私は初めての場所であるにも関わらず、生きるのがしんどくなったある夜のことをふと思い出し、話しはじめていました。言葉にすると、改めていびつな自分に気がつきます。私は死にたい理由はいくつかあっても、生きる理由が一つでもあれば生きていけると思っています。とりあえず一つあったから今も生きています。私にとって生きようと思った理由は、自分が大切に思っている人、また大切に思ってくれる人の存在でした。人と人とのつながりの力は大きいと思います。そのような経験は私だけではないと思います。ダルクの利用者にとって、家族やダルクの仲間の存在も然りです。人との関わりで苦しむこともあれば、生きることはまんざらでもないと思わせてくれるのも人との関わりであると思います。

午後は、運動プログラムを仲間と一緒にいき、その後、仲間と一緒にNAに参加しました。NAは、司会、会計などの役割を皆が合議制で決め、対等な関係で運営しています。参加者はダルクの仲間だけでなく、昼間働きながら、夜NAに参加する仲間もいます。NAは、当事者限定のミーティングであるため、アディクトでない私には発言権は無く、皆の話を聞きました。

回復のための12のステップのハードルは高いです。私とその立場であったとしても、とても取り組める内容ではありません。心の支えになるのは、やはりやめ続けるために新しい生き方を模索している仲間の存在です。回復過程で「あるべき姿」を押し付けるのではなく、仲間と痛みを分かち合いながら、希望を紡いでいく姿がありました。

生きていくことはしんどいです。生きづらさと生きる希望の狭間で、共に寄り添い、共に12のステップを歩む仲間の姿が、神々しく感じ、興奮のあまり体験日の夜は寝付けませんでした。

本年度から、岐阜県において依存症対策総合支援事業が実施されます。今回の体験を学びとして、当センターでは、岐阜ダルクをはじめとする支援団体や、医療・保健・福祉・その他関係機関等と連携を深め、生きづらさを抱える当事者やご家族に寄り添う支援ネットワークづくりを推進していきたいと思っております。



# 岐阜ダルク 活動報告



7月

- 7 情状証人出廷
- 9 ヨーガプログラム
- 14 保護観察所における薬物乱用防止プログラム・ステップアッププログラム (以下 ステップアッププログラム)
- 情状証人出廷
- レクリエーション (岐阜駅周辺散策)
- 京都府立大学講義
- 15 岐阜刑務所薬物離脱指導
- 16 岐阜ダルク後援会
- 17 毎日新聞沼津専売所・川村新聞店にて助成金贈呈式 川村益美様
- ステップアッププログラム
- 21 笠松刑務所薬物離脱指導、ステップアッププログラム
- 22 笠松刑務所薬物離脱指導
- 25 フラワーセラピー
- 26 インマニエル岐阜キリスト教会にて活動紹介
- 28 ステップアッププログラム、岐阜刑務所薬物離脱指導
- 30 ヨーガプログラム
- 31 ステップアッププログラム、陶芸プログラム

8月

- 2 ホームレスを襲撃する子供の問題セミナー カトリック南山教会にて活動紹介
- 4 情状証人出廷
- 5 各務原病院メッセージ、笠松刑務所薬物離脱指導
- 11 情状証人出廷、ステップアッププログラム
- 12 情状証人出廷
- 13 ヨーガプログラム
- 14 ステップアッププログラム
- 16 田瀬教会にて活動紹介
- 18 ステップアッププログラム
- 19~20 レクリエーション (高山)
- 21 ステップアッププログラム
- 岐阜刑務所薬物離脱指導
- 25 ステップアッププログラム
- 26 笠松刑務所薬物離脱指導
- 27 岐阜ダルク後援会
- ヨーガプログラム
- 28 ステップアッププログラム、陶芸プログラム
- 29 フラワーセラピー
- 30 中濃教会・友愛キリスト教会にて活動紹介

9月

- 2 各務原病院メッセージ
- 4~6 鳥取・岡山・岐阜ダルク合同フェロシップ
- 8 ステップアッププログラム
- 10 ヨーガプログラム
- 11 ステップアッププログラム
- 12 三重県人権教育推進協議会来訪
- 13 岐阜ダルク家族会
- 15 薬物依存症回復支援ネットワーク懇談会参加
- ステップアッププログラム
- 17 岐阜ダルク後援会
- ステップアッププログラム
- 18 ステップアッププログラム
- 23 ニュースレター発送作業

7月17日 毎日新聞岐阜支局にて助成金贈呈式



鶴沼専売所にて今年度も助成金をいただきました。岐阜ダルクの活動を記事にさせていただくことも多く、各務原ダルク設立のお願いも大きく新聞に掲載していただきました。いつもありがとうございます。(施設長：遠山 香)

9月12日 三重県人権教育推進協議会来訪



三重県人権教育推進協議会の方 12名が施設見学に来られました。皆さまにダルクミーティングに参加していただき、ダルクで日々やっていることの意味を体験して頂けたのではないかと思います。(スタッフ：勇 陽子)

8月2日 カトリック南山教会にて活動紹介



このコロナ禍で次々と予定が立たない中、活動紹介をさせていただきました。各務原ダルクを開設することで皆様に耳を傾けていただき、ご協力いただきました。本当に嬉しかったです。(スタッフ：宮嶋 慶子)

## レクリエーション

ダルクの仲間達は、人と関わることで、何かに集中することが苦手で、依存症者の特徴として、他者からどう思われているかを感じたり、自分の思いどおりにならないことに恐れを感じやすいため、一人になることを好みます。しかし、私たちは一人では依存行為(薬物、アルコール、ギャンブルなど)を止めることができません。一緒に行動すること、苦しいことに取り組むことで共感し合い、信頼関係を築いていきます。月に一回行われるレクリエーションは、私たちの回復にとっても大事なプログラムのひとつです。

## 8月19日~20日 レクリエーション in 高山



施設のレクリエーションで古民家に泊まりました。仲間と一緒に料理を作ったり、近くの川で泳いだりしました。仲間は橋に取り付けられている網から川にジャンプしていましたが、僕は怖くてできませんでした。ビビりなのがバレてしまい恥ずかしかったのですが、泳いだりして楽しい思い出ができました。(ヤス)

## 天体観測



## スイカ割り



一面に広がる星空の下、地面に寝そべて仲間と天を仰ぐ。静けさの中、ほほを撫でる風は優しく、天を横切る流星の多さに圧倒される。言葉に出来ない光景を目にし、共に同じ景色を見ている仲間と、自然と心の距離が縮まっていく気がする。1泊2日の自然との触れ合いを通して、改めて一人では味わえない喜びや発見に、たまたた感動するだけでした。(しょう)

生まれて初めてやったスイカ割り。本当はクダらないなと思いつつも仲間の声を聞きながら、割れた時には本当はうれしかった。(ラジオ)

## 川遊び



## 新種高ロープウェイ



正直、3000円も払ってロープウェイ？！と思ったりしていたけど、人生初体験？(乗った事あったかな?)車酔いもするのので酔うのが心配だったけど頂上からの景色は心が洗われる様でした。(ミラクル)

## 9月4日~6日 鳥取・岡山・岐阜ダルク合同フェロシップ



合同フェロシップに参加させてもらいました。海がすぐそこにあるバーベキュー場で焼き肉を食べました。それだけでも気分がとても良かったのですが仲間と一緒に肉を焼きながら話をするとなんと会話も広がりました。(ちさこ)

## キャンプファイヤー ミーティング



鳥取、岡山ダルクの仲間が企画してくれたキャンプファイヤーミーティング。スタートと同時に降り始めた雨も、みんなの祈りが通じたのかすぐに止み、燃える焚火を見ながら自分の正直な話ができる。幻想的なミーティングにスピリチュアルを感じました。鳥取、岡山の仲間へ感謝！(ていちゃん)

## サーフィン



初サーフィン！頭で「力を抜いて波に乗るんだ。」と思っても、体はこわばるばかり。うま〜波に乗れませんでした。でも楽しかった。鳥取、岡山の仲間ありがとう！(ジェン)



鳥取ダルク、岡山ダルク、岐阜ダルク合同フェロシップに参加させていただき、2泊3日で鳥取県に行き、キャンプファイヤーミーティング、バーベキュー、海水浴、サーフィンを色々イベントを企画してくれました。2日間サーフィンに参加させていただいた僕は、サーフィンで波に乗るステップ3を実践して立てる様になりました。2日間、サーフィンの準備や企画をしてくれた仲間達に感謝します。(まさひら)

## 依存症入門講座

### 第4回「更に禁酒法について・・・」

各務原病院 ソーシャルワーカー 澤木幾佐



#### 禁酒法の限界

アメリカは植民地時代において、節酒をも戒めるように、飲酒に対して否定的であった。何故ならば、アメリカ建国（1776年）の礎を築いたのは主に敬けんなキリスト教徒であるピューリタンたちである。そのピューリタンの清廉潔白な戒律や細かな日課で日々厳しく規則正しく生活するという教えに対して、飲酒は全くそぐわないものであったからだ。

その後、1820年にはアメリカで禁酒の取り組み、更に1826年にはアメリカ節酒促進協会が設立し節酒の取り組みが始まった。19世紀初頭のアメリカでは、近年の3倍程の量のアルコールが消費されており、健康被害や家庭内暴力など様々な社会問題が表面化していた。そこで、信仰深いキリスト教徒や婦人運動に参加していた女性らが主導し、アメリカの各地で禁酒制度が制定されるようになっていった。

こうした禁酒運動は、酒税による税収入を必要とした南北戦争（1861年～1865年）の間は一旦中断されたが、逆に1914年～1918年の第一次世界大戦では、酒の原料となる穀物を節約するために更なる禁酒が進められた。禁酒法時代には密造酒が多く作られ、主材料は工業用の穀物アルコールだった。密造酒のひとつにアブサンという着火する程の高濃度の酒があり、透明な緑色をしており、角砂糖を落として飲むという少し変わった飲み方をとする酒で、魔の酒と呼ばれていた。アブサンはかつて画家ゴッホも好んで飲み、幻覚作用があった。度重なるゴッホの奇異な行動もアブサン中毒から来ているという説もある。禁酒法時代には政府が工業用アルコールに毒を混ぜたため、飲酒に大きなリスクが伴った。現に、禁酒法時代の酒で一人もの死者が出たという記録がある。酒の酒屋の店主は科学者まで雇って酒から毒を取り除こうとしていた。

近年、経済学者ザゴルスキー氏は「経済学者の立場から見ると、人々に健康に悪いことをやめさせたいなら、禁止するより価格を上げたほうが効果的だと考えられます。1970年代には40%だったアメリカの喫煙者の割合が、2018年には16%に減少したのと同様です」と指摘。更に、「禁酒法は、ものごとを禁止しても成功することは減らないということを思い起こさせてくれます」と、主張している。そもそも、この禁酒法は「ひととは自由を制限されるとより自由に固執する」心理的リアクタンス（選択する自由が外部から脅かされたときに生じる、自由を回復しようとする反発作用）を無視しているのだ。人間は自らが自分の行動を自分で決定し、自由でいたいという生まれながらのとても強い本能を持っている。そのため、何等かの禁止がされると、例えそれが自分に有益なことであっても、かえって自分で選んだ行動に価値を見出して禁止事項に従わずに行動に至ってしまう本能的な傾向がある。禁酒法の散々な結果も、この心理的リアクタンスを考慮しない法律施行の当然の結果だとも言えるのだ。

#### アルコール依存症治療の現場と心理的リアクタンス

この傾向は治療の場においても言えることだ。依存症者は全く治療する気がないが、周囲の人間は困り果て依存症者に治療を強要する場面を現場で幾度も目にしてきた。家族も手取り早く薬になる方法を模索しており、無理もないことだが、自助グループに通って時間をかけて家族が自ら共依存から抜け出すことよりも、とにかく早く強引にでも依存者の治療を開始させたいひとが多々認められる。かえって強引な支援で治療を遅延させることになった家族も少なからず見てきた。こういった家族の行動の改善は今後の大きな課題とも考えられる。

しかし、かえってこの家族の尻ぬぐい行為や世話焼き行為、強引な気質や焦燥感による行動が事態を悪化させ、回復を遅延させたりすることになるなどと、しっかりと考えられる家族や関係者は現時点でどのくらいいるのだから？ひとりの援助者として、まず、家族から相談の電話がかかってきた時点で、「依存症者に禁酒を強制しない方がいいですよ」「周囲が対象者に酒を止めると言わないことはできますか？それが治療の第一歩です」と伝えることにしている。10年程前、ある当事者に「依存症者がその辺りで倒れていても放っておくことだ。泣いてようとわめいてようと放っておくことだ」と言われたことがある。その時はそのことばの意味が分からなかった。余りに酷い状態に、ひととして放っておくことに罪悪感がして、それ以上に、自分が対象者に恐怖を感じたから・・・既にそう感じた時点で逆転移、二次受傷をして・・・相手にエネルギーを相当奪われている状態で、依存者おなじみの、周囲を怖がらせてコントロールするというドツボに自分がハマっていたのだが、お世話を焼いたりご機嫌を取ったりと、尻ぬぐい行為をいつの間にかしていたということを、その後幾度か経験した。専門家ですらそんなお粗末な塩梅なのだ。鬱病や過敏神経症に追い込まれた家族が思い余って自殺したり一家心中ということもリアルにあることなのだ。経験上言えることだが、症状が酷い依存症者と暮らすことはとても普通の人間の神経では持たない。これまでかかわった人たちで、心身ともに傷ついていないという家族は皆無であった。このことから、働けなかったり、家族を金ずるにしたり、暴言を吐き暴力をふるう等、周囲の人間を粗末に扱ったり、再発を繰り返し、地域の自助グループでの回復が困難であったり、その様な悪化の著しい依存症者の回復には施設での徹底したプログラムが必要だということである。

## ダルク まんが



(まんが執筆：ヨッチャン)

## ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

### 献金者名(令和2年5月31日～令和2年8月28日)敬称略

加茂保護司会・永田照代 道樹寺・住職・江口潭淵 土岐保護司会・出口満知子 山県地区更生保護女性会・代表・山口のり子 福野照代 田口大輔 野田由美 林雅美・三枝子 岐阜市更生保護女性会・事務局・長谷川比登美 島源三 藤江功 加茂保護区保護司会 服部正博 木下容子 合田政次 山科正太郎 安西玲子 武藤晏子 野々垣孝・多美子 大木慶志 福田修 清水隆 丹羽哲 西戸一孝 堀尾佳広 横井勝秀 大竹幸子 藤本弘 橋詰清子 コウノシユウゾウ 近藤緑 もとす広域保護区保護司会・会長・加藤伸明 羽島地区更生保護女性会・会計・岩井英子 柴崎章子 伊藤皓吉 河口隆志 出井武史 勇昭代 神谷法律事務所・神谷慎一 梅岡一哲 西洋子 光楽英生 高富グレイスタチャベル・金森洋三 奥石由起子 武芸川町仏教会 弁護士・山本亮 浄願寺・住職・杉山賢 村松みよ子 北川博司 有安祥子 伊藤直美 成井尋江 サイトウヒロコ カトリック鳴海教会・木村暢男・薫子 樹の会・加藤洋子 大垣保護区保護司会 鶴飼芳恵 北谷雅春 吉田正俊 横井法律事務所・横井浩 河合潔 小川真佐子 市川質店・市川明子 光野雄二 小山寺・中西東峰 亀山和秀 齊藤栄子 岡村晴美 杉山仁美 村山克美 竹中智子 岡田千歳 成精会・刈谷病院 小田泉 池戸悦子 仁科満紀子 岩田恭子 多治見保護区保護司会 太田綾子 土岐保護区保護司会 堀薈一 深田逸子 大森正樹 大曾根弘美 養清興業株式会社 ムラマツヒロユキ 日本カトリック女性団体連盟 高木綾子 各務原中央ロータリークラブ 若岡ます美 山下民男 鈴木美穂 杉浦ユリ 武内榮子 久保田芳則 芝連代 福島春美 栗田美恵子 永嶋恵美 西村牧子 匿名者多数

### 活動紹介による献金(令和2年5月31日～令和2年8月28日)敬称略

カトリック各務原教会の皆様 インマヌエル岐阜キリスト教会の皆様 カトリック南山教会の皆様

### 献品者名(令和2年5月31日～令和2年8月28日)敬称略

のわみ相談所 岐阜野宿生活者支援の会 鳥居よしふみ 本村健一 永嶋恵美 二村千恵子 (株)藤田商店 蓮見恭子 木下容子 (株)樟田邦自動車 大曾根弘美 近藤緑 岡本敏孝 水野智子 匿名者多数

※お名前記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前の誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れ入りますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいませようお願い致します。

◆献品のお願い◆仲間が増えお米の消費がたくさんあり献品としてお米をいただくと助かります。

お力添え下さい。

TEL. 058-201-3555

#### 岐阜ダルクへのご寄付をお願い申し上げます

岐阜ダルクでは施設の地代家賃、水道光熱費、専任スタッフの人性費等、毎月一定の固定費がかかる一方、「中間施設」の性格上、きわめて財務基盤が不安定で、皆様方のご寄付が欠かせません。引き続きご理解とお力添えをお願い申し上げます。  
郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

#### 各務原ダルク設立準備のご寄付の受付をはじめました

各務原ダルクの開設計画がスタートしました。開設のための資金、初期運営活動費などが不足しています。岐阜ダルクとは別に、振込用紙を同封させていただきました。どうかご理解とお力添えをいただければ幸いです。

郵便振替口座 00820-3-207230 女性ハウスを支える会

※通信欄に、「各務原ダルク」と分かるよう記載おねがいします。

※このニュースレターは、コープぎふ福祉活動助成基金からの助成を受けて作成しました。

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク  
編集担当 岐阜ダルク後援会 徳弘浩隆 鈴木輝一郎  
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-201-3555  
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp  
ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>  
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sblo.jp/>  
2020年 岐阜ダルクニュースレター令和2年秋号 (No.77)  
定価 1部 200円編集責任者 遠山 香  
発行所 東海身体障がい者団体定期刊行物協会  
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

